

20年前から今呼ぶところの「カリキュラム・マネジメント」
に取り組んでいた善野先生にお話をうかがいます
善野八千子先生（奈良学園大学人間教育学部 特任教授）

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

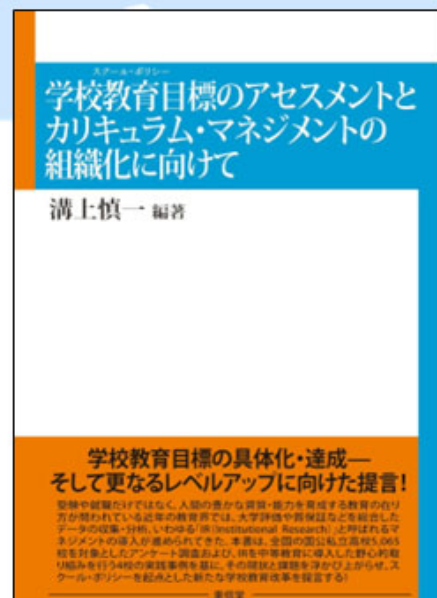
※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

No309

学校教育目標(スクール・ポリシー)のアセスメントとカリキュラム・マネジメントの組織化に向けて

溝上 慎一

(桐蔭学園理事長・桐蔭横浜大学教授)



動画チャンネル「溝上 慎一の教育論」

(ご紹介)



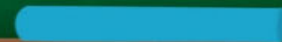
善野八千子

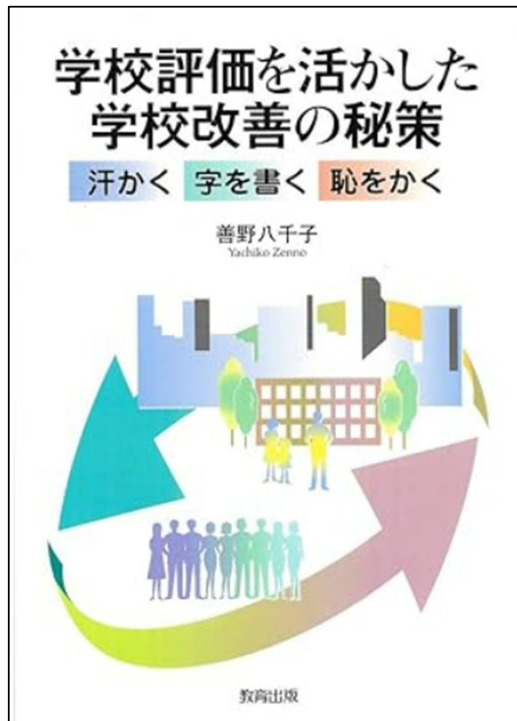
ぜんの やちこ

奈良学園大学
社会・国際連携センター長
人間教育学部 特任教授

大阪教育大学大学院 修士課程修了、修士（学術）。
大阪府堺市立小学校教頭、大阪府教育センター主任指導主事、
国立教育政策研究所客員研究員、奈良文化女子短期大学学科
長教授を経て、現職。

大阪府人権施策審議会会長、和歌山県訪問型家庭教育支援
事業協議会座長、大和高田市子ども子育て会議委員長等歴任





善野八千子 (著) (2004).『学校評価を活かした学校改善の秘策—汗かく 字を書く 恥をかく』教育出版

第1章 本当のリーダーシップとは

- 1 「話す」ことで築く信頼/
- 2 「聴く」ことでつなげる信頼/
- 3 「書く」ことで築く信頼/
- 4 子どもを守る「リーダーシップ」/
- 5 やめていくベテラン教師たち ほか

第2章 始まりはビジョンづくりから

- 1 夢を力にして学校教育目標をつくる/
- 2 共有できる学校の未来像をつくる/
- 3 言ってみてください, 学校教育目標/

第3章 今, 求められる学校評価

- 1 分かったつもりになっている自分と闘うための理論編/
- 2 学校評価とは何か/
- 3 「学校教育自己診断」の位置付けと目的

第4章 明らかになった学校評価の課題

第5章 チャンス, チャレンジ, チェンジ

第6章 ああする, こうする, 学校評価のプロセス

第7章 これからの学校マネジメント ほか

それではご覧ください

1-(1)これからの学校に求められるもの

「期待と信頼に応える公教育の実現」

- 1) コンプライアンス(法令遵守)の徹底
- 2) 地域協働のマネジメント
- 3) 学校評価を活かした学校改善
- 4) 学力向上の具体策発信と実行

◆4枚のシートを重ねて実行  実効

(新著の紹介)

溝上慎一 (編) (2024). 学校教育目標 (スクール・ポリシー) のアセスメントとカリキュラム・マネジメントの組織化に向けてー 東信堂 (2025年1月20日)

第1章 理論

第2章 学校教育目標のアセスメントとカリキュラム・マネジメントの組織化に向けた実践的提案

第3章 アンケート調査から見る全国高校のスクール・ポリシー体制、データ・マネジメントの実態

第4章 事例

事例1 桐蔭学園高等学校・中等教育学校 (川妻篤史)

事例2 大手前高松中学・高等学校 (合田意)

事例3 富士市立高等学校 (滝陽介・斉藤雅)

事例4 品川女子学院中部・高等部 (山本はるか・山崎碧)

① 学校教育目標を測定可能な資質・能力の目標へと変換し、その達成の程度をカリキュラム・アセスメントすること

② ①の過程や結果を学校の教職員と共有し、カリキュラム・マネジメントとしての実践的組織化を図ること

学校教育目標のアセスメントと
カリキュラム・マネジメントの
組織化に向けて

溝上慎一 編著

学校教育目標の具体化・達成—
そして更なるレベルアップに向けた提案!

学校教育目標の具体化・達成—そして更なるレベルアップに向けた提案!—
本書は、学校教育目標の具体化・達成に向けた実践的提案を、全国の公立・私立高校・中学校の教職員が参考として活用できるように、事例を基に、実践的提案をまとめた。また、全国の公立・私立高校・中学校の教職員が参考として活用できるように、実践的提案をまとめた。また、全国の公立・私立高校・中学校の教職員が参考として活用できるように、実践的提案をまとめた。

東信堂

問題の所在

2000年当時から現在においても続いている状況

- ◆小1プロブレムの顕在化
- ◆学校生活への不適応
- ◆未分化から各教科に分化していく
就学前後のカリキュラム編成が不十分
- ◆ステークホルダーの要望の多様化・高次化

①中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方」(平成10年)1998年

- ・校長の人事権限の強化
- ・校長の財政権限の強化
- ・学校経営についての説明責任

②教育課程審議会答申(平成12年)2000年

- ・学校の自己点検・自己評価
- ・学校評議員制度による説明責任
- ・自己点検・自己評価の内容、方法、公表の在り方についての研究開発

③教育改革国民会議提案(平成12年)2000年

- ・地域の信頼に応える学校づくり
- ・開かれた学校づくりと説明責任
- ・学校評価制度(外部評価を含む)の導入と学校選択
- ・保護者、地域住民の学校運営参加
- ・企業による保護者への協力

④中央教育審議会答申「今後の教員免許制度の在り方」(平成14年)2002

- ・信頼される学校づくり
- ・学校からの情報提供の充実
- ・授業の公開の拡大
- ・学校評議員制度等の活用
- ・学校評価システムの確立
- ・新しい教員評価システムの導入

(朱文字は善野による)

1-(1)これからの学校に求められるもの

「期待と信頼に応える公教育の実現」

- 1) コンプライアンス(法令遵守)の徹底
- 2) 地域協働のマネジメント
- 3) 学校評価を活かした学校改善
- 4) 学力向上の具体策発信と実行

◆4枚のシートを重ねて実行  実効

善野八千子(2001～2005年)大阪府教育センター「学校経営研究室・企画室 主任指導主事」

作成：善野八千子

1-(2) 教員の力量形成の機会と要件

1. 仕事で育つ

明確な学校園経営ビジョン・効果的なOJT

2. 先輩と育つ

モデルとなる先輩・相談できる先輩

3. 評価で育つ

機能する学校評価・授業評価システム

4. 異文化で育つ

学校間接続・社会連携

5. 自分で育つ

内発的動機・達成感

作成：善野八千子

自主的で、自律的な学校経営

学校評価は、

「情報公開」と「学校の自律化」の両輪

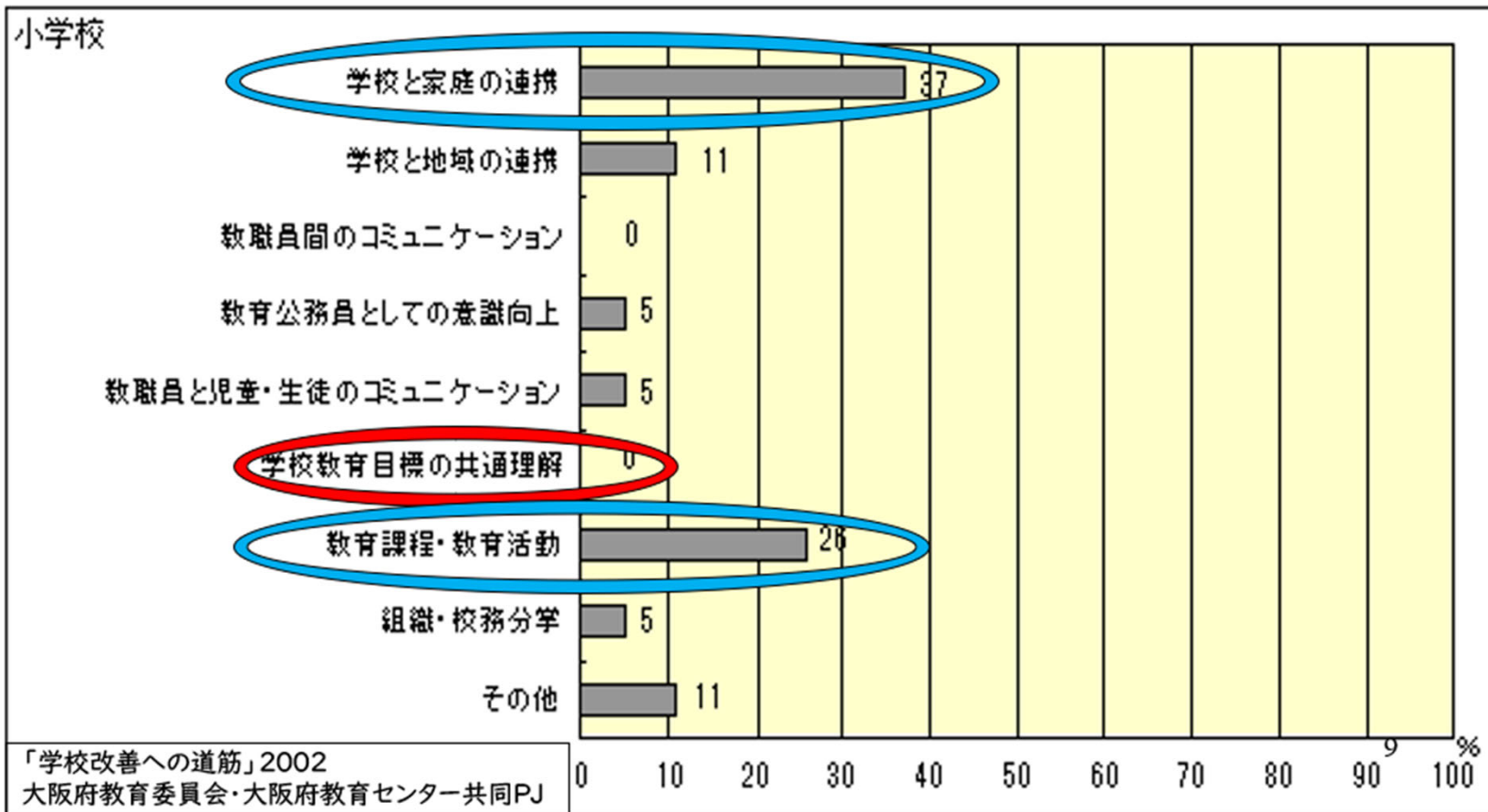
- 第16期中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方について」
(1998年)*
「各学校においては教育目標や教育計画等を年度当初に保護者や地域住民に説明するとともに、その達成状況等に関する自己評価を実施し、保護者や地域住民に説明するように努めること。」を求めた。
- 施策の主眼は教育の地方分権に置かれ、自主的で、自律的な学校経営の確立にある。これまで以上に学校に権限を付し、多様な教育課程を編成・実施しうる裁量権を認めることとなった。自律的学校経営に公開制を組込むことは必須の事項となったと言える。
- 文部省(1998)「中央教育審議会答申 今後の教育行政の在り方について」
- 小・中学校の設置基準定めた(文部科学省2002年4月施行)。

学校評価の定義 学校評価論 文献研究より

- (1) 文部省の学校評価論*2文部省(1951);中学校・高等学校 学校評価の基準と手引き(試案)実教出版(P3~5)
- (2) 高野桂一の学校評価論*3高野桂一(1962)「学校運営研究」12月号明治図書出版、P12、*4高野桂一(1998)「実践学校経営診断」ぎょうせいP75
- (3) 吉本二郎の学校評価論*9吉本二郎(1979)「学校教育研究所年報」第23号、学校教育研究所 P67~72
- (4) 牧 昌見の学校評価論*6牧昌見(1986)「学校経営診断マニュアル新しい手法の開発と効果的な使い方」教育開発研究所P5、牧昌見(1975)「児童心理1975年3月号特集成長のための教育評価」金子書房、P71、牧昌見(1975)「学校経営と教頭の役割」ぎょうせいP208、*7牧昌見編著(1987)「教育実践に生きる経営診断」ぎょうせい、P80
- *8細谷・奥田・河野・今野編(1990)第一法規P546
- (5) 幸田三郎の学校評価論*5幸田三郎(1990)「新教育学大辞典」第一法規P. 592~594
- (6) 中留武昭の学校評価論*10中留武昭、国立教育研究所内学校経営評価研究医委員会編(1983)「学校経営評価に関する基礎的研究」国立教育研究所21*11中留武昭(1994)「アメリカの学校評価に関する理論的・実践的研究」第一法規P8
- (7) 八尾坂修の学校評価論*12八尾坂修(2001)「現代の教育改革と学校の自己評価」ぎょうせい P14
- (8) 児島邦宏の学校評価論*13細谷・奥田・河野・今野編(1990)第一法規P. 542
- (9) 木岡一明の学校評価論*14木岡一明(2002)「学校評価の促進条件に関する開発的研究中間報告書(2)」国立教育政策研究所P. 22

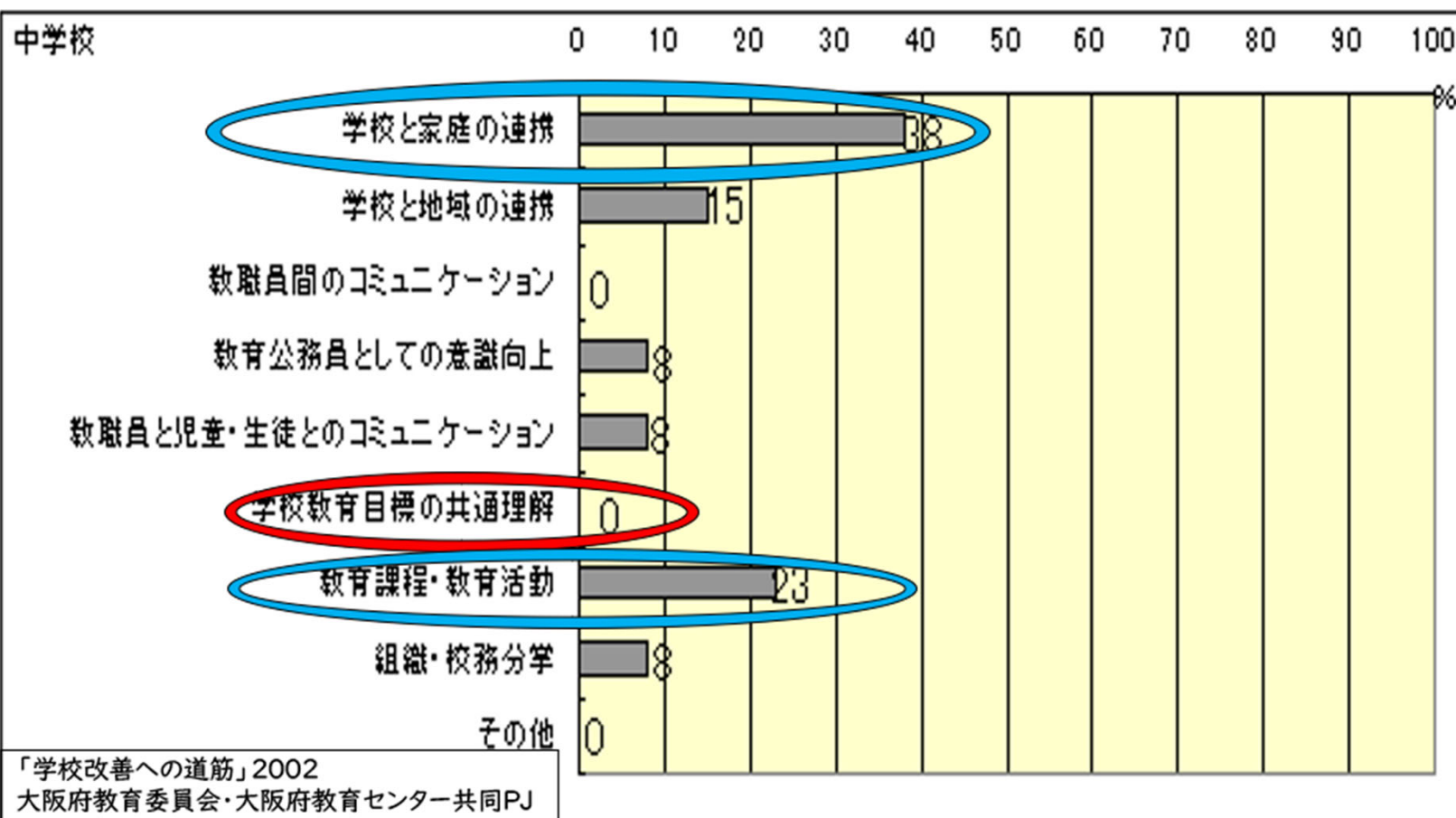
学校評価「学校教育自己診断」によって 改善できたことは何か（府内公立 小学校）

◆調査対象：府内68校（府立高校19校、府立盲・聾・養護学校5校、市町村立学校44校）
大阪府学校自主性・自立性の確立と開かれた学校づくりに関する調査研究協力者
会議」のうち、2001年度までに「学校教育自己診断」実施校及び学校協議会設置



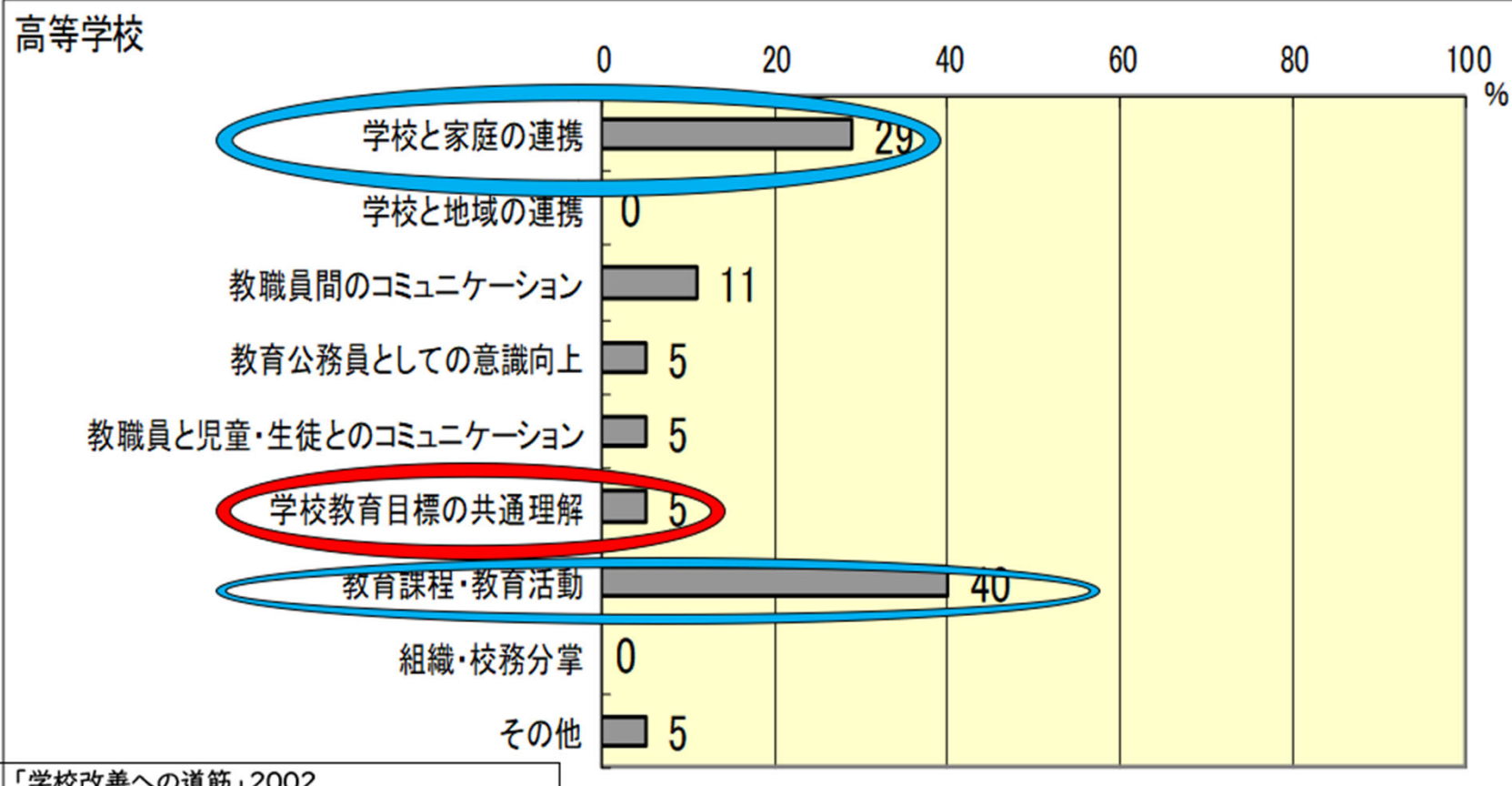
学校評価「学校教育自己診断」によって 改善できたことは何か（府内公立 中学校）

◆調査対象：府内68校（府立高校19校、府立盲・聾・養護学校5校、市町村立学校44校）
大阪府学校自主性・自立性の確立と開かれた学校づくりに関する調査研究協力者
会議」のうち、2001年度までに「学校教育自己診断」実施校及び学校協議会設置



学校評価「学校教育自己診断」によって 改善できたことは何か（府立 高等学校）

◆調査対象：府内68校（府立高校19校、府立盲・聾・養護学校5校、市町村立学校44校）
大阪府学校自主性・自立性の確立と開かれた学校づくりに関する調査研究協力者
会議」のうち、2001年度までに「学校教育自己診断」実施校及び学校協議会設置



学校評価を活かした 学校改善の秘策

汗かく 字を書く 恥をかく

善野八千子
Yachiko Zenno



「元気が出る」学校づくり
—善野ワールド,一挙公開!

すべての教職員とこれから教職員をめざす人
への熱いメッセージ

京都ノートルダム女子大学学長 梶田 叡一

教育出版



ISBN978-4-316-80099-8
C3037 ¥2200E

定価: 本体2,200円+税



9784316800998



1923037022007



目次

- 第1章 本当のリーダーシップとは
- 第2章 始まりはビジョンづくりから
- 第3章 今,求められる学校評価
- 第4章 明らかになった学校評価の課題
- 第5章 チャンス,チャレンジ,チェンジ
- 第6章 ああする,こうする,学校評価のプロセス
- 第7章 これからの学校マネジメント

本校の教育目標は適切ですか

A そう思う

B どちらかといえばそう思う

C どちらかといえばそう思わない

D そう思わない

E わからない

フィールドリサーチ・半構造化インタビュー ～A小学校「学校教育目標」大説明会から共有化の実際～

(善野八千子2004「学校評価を生かした学校改善の秘策」教育出版P52、P85～P138 引用)

「学校再生プロローグ」

- ①保護者とのトラブル
- ②子供の問題行動の頻発
- ③「学級崩壊」の顕在化

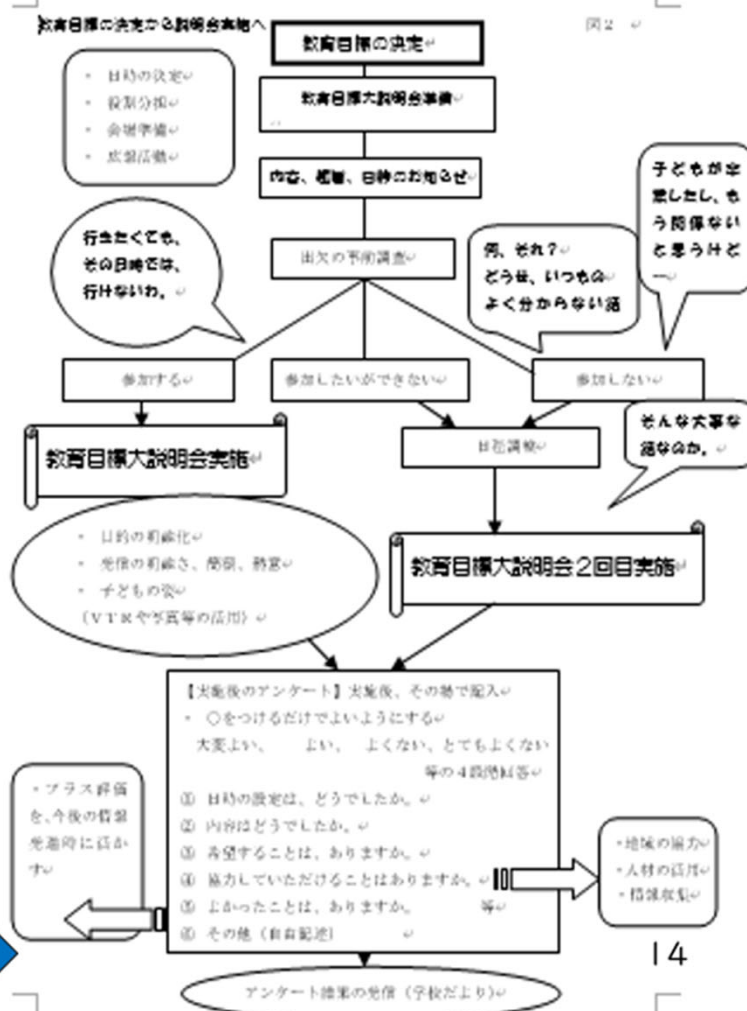


- ①日常的に全授業に保護者参観受け入れ
- ②管理職による授業サポート
- ③日常的学級懇談会
- ④A小「新教育課程PJ」★学年総合
- ⑤スクールモニター制度

【教職員の意識改革 ～学校教育目標の共有化】

- ①ボトムアップ型 校内世論の形成
- ②学校教育目標の改訂

作成：善野八千子



「学校教育目標は、学校運営の要。

教職員の共通認識の要でもあり、保護者や地域からの信頼醸成の要諦となる」

(A小学校C校長 寄稿:日本教育新聞2001.1.12)

「21世紀のA小を拓くために」—新しい教育課程編成にあたって—として分析)

(1)保護者(懇談会出席者)に対して;学年と学級の結果提示、説明。

学校全体結果については全員配布

(2)学校協議会に対して;診断結果説明ならびに校内研修会で議論

○教育課程の改善、各分掌、全体研修、個人研修。

○通知表改訂;翌年度1学期早々に説明会を実施。1学期末には通知表を改訂。

スピーディでタイムリーな学校評価結果の フィードバック例。

○自主研究発表会(2003年1月)「こんな学校にしたかった～教職員の夢の実現～」

全国から1000名以上の参加者。行政からの委嘱ではないボトムアップの研究発表。

学校自らが、保護者・地域社会へ学校の取組を評価を求める場とした。

教職員の「創意」を「総意」という全体会での発表。学校長との信頼関係が随所に見られる。

自分が勤務する学校への誇りは改善の取組へのこだわり。

(3) 4つの改善;a, 学校観 b, 児童観 c, 学習観 d, 指導観

・KJ法での子どもの問題点270、育てたい子ども像の共有

・新しい形の授業の創造、当たり前と思うことの見直し

・教育課程検討委員会の設置、学級経営アンケートの実施

(4) 総合カリキュラム開発;学校総合、学級総合の実施

・カリキュラムアンケートから見えてきた事

①交わりの力②社会参加の力③自尊感情

④校庭から世界へ;学校の特色「国際理解教育」

(5) 地域に開く;教育課程大説明会、改革のポイントの説明、外部評価、スクールモニター制度

ex.【学年総合】4年生の各クラス
英語活動地域のゲストティーチャー
・遠足の目的地変更
@関西国際空港
海外の人へインタビュー
オーラルコミュニケーション育成

「学校教育目標」の見直しと「カリキュラム改善」

子どもの育ちの検証と改善策の発信

～A校@2002年度(2003.1)自主研究発表会 1000名以上 全国から参加～



(1) 学校組織の改革

「授業力がUPした」

「教師が真剣に目標に向かって一丸となって取り組む姿勢が見られるようになった。」



(2) 教師の意識改革

「子どもの後ろにいる保護者の気持ちを考えながら動けるようになった」

「指導する中で、評価項目が知らず知らずに目標になっていることがあった。」



(3) 保護者の意識改革

「親が、子どものことや学校のことを積極的に考えるようになった。」

信頼構築や授業改善に活用する
コミュニケーションツール

学校教育改革の提言 (善野八千子講演資料より2009.05.01「S県新任校長研修会」)

家庭・地域・学校の協働マネジメント

めざす学校園づくりの3つの視点

1) ひとづくり

社会の加速度的な変化や子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた
生涯教育の視点

家庭の教育力を高める
地域の教育力を高める

2) まちづくり

幼・保と小・中学校と特別支援校の連携の在り方を見直す
学びの共同体としての地域社会の視点

校種間連携を深める

3) 授業・保育づくり

学校教育を再構築する
子どもの成長と学びの連続を保障する視点

学力向上策を発信する
授業力・保育力を向上させる

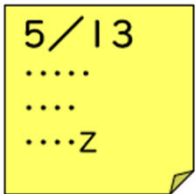
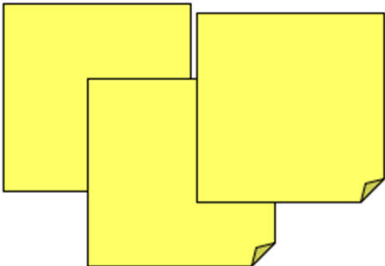
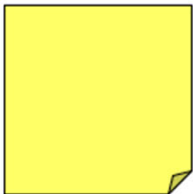
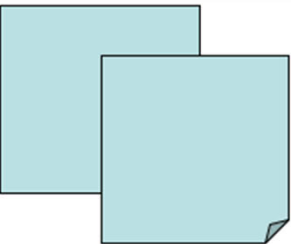
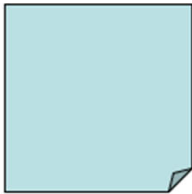
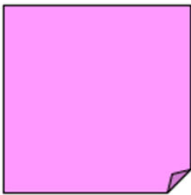
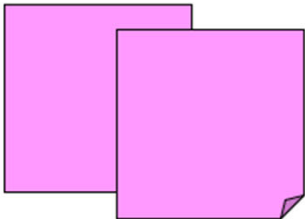


「学校教育目標の見直し」と「研究テーマの設定」

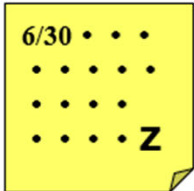
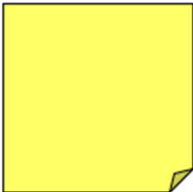
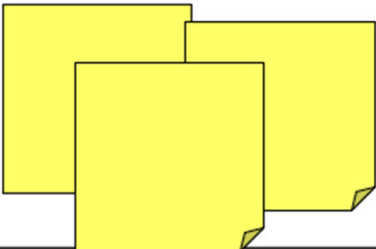
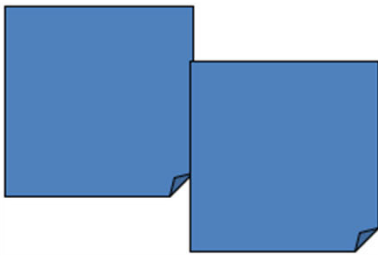
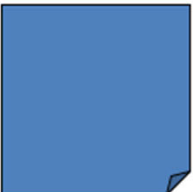
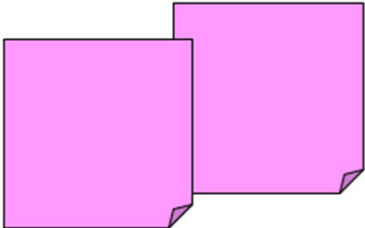
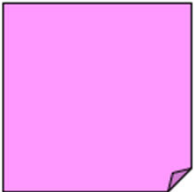
育ちをつなぐ学校評価～幼稚園から高校の学校評価元年～

2009.8.16神戸フォーラム

「よく見・聴いて 考え伝え 探究する子」

5月	国語	数学	社会
よく見・聴いて 学習規律 観察力			
考え・伝え 思考・判断力 表現力			
探究する子 課題探究力		作成：善野八千子	

「幼稚園の教育目標」と「日々の評価」
 研修会で合意形成→誰もが意識できる教育目標に更新
 「わくわく のびのび 最後まで」

	年少組(3歳)	年中組(4歳)	年長組(5歳)
わくわく 意欲			
のびのび 表現力			
最後まで 耐性 体力			 作成：善野八千子

●「園の教育目標」に対応した日々の評価
保護者の送迎時の動線上に「見える化した掲示」



遊びの中で
学んでいることが
いっぱいね。

幼稚園ではこんなことを
育てようとして
いるのね。

学習指導要領をふまえて (平成20年3月)

～子どもの育ちと学びの連続

学習指導要領→学校教育目標→学校評価を活かす～

幼稚園教育要領

小学校学習指導要領・中学校学習指導要領

2008年度の周知期間、移行措置を経て全面实施

- ・ 幼稚園・・・2009年度
- ・ 小学校・・・2011年度
- ・ 中学校・・・2012年度

高等学校学習指導要領、特別支援学校学習指導要領公表

(平成20年12月)

学習指導要領を自分事として、どのような学校経営を進めることが必要か。

◆学習指導要領全体を 俯瞰的に理解し、共有を図る

- ◆各教科・領域・時間の内容や方法の改善だけではない。
- ◆これまでの個々の教師の理解や教科ごとの議論
小学校は、〇〇任せ。
中学校は、〇〇任せ。
親は、〇〇任せ。↓

学校として子どもの育ちと学びの連続保障

22

伝え合おう、子どもの育ち

形成的評価

総括的評価

- ◆2時点の変容
- ◆個の変容
- ◆集団の変容
- ◆学校として達成したこと

客観性・妥当性・信頼性

学校評価ガイドライン策定から改訂へ

◆2006年(平成18年)3月

「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」策定

「自己評価」「外部評価」

2007(平成19年)6月

学校教育法改正により学校評価の根拠規定が新設

2007(平成19年)10月

学校教育法施行規則において、自己評価の実施・公表、保護者など学校関係者による評価の実施・公表、自己評価結果・学校関係者評価結果の設置者への報告に関する規定が新設



◆2008年(平成20年)1月「学校評価ガイドライン」の改訂
(小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校)
(幼稚園:平成20年3月)

「自己評価」

「学校関係者評価」「第三者評価」

自己評価と他者評価

	他者評価 ○	他者評価 ×
自己評価 ○	自己実現 有能感	自己満足 無能感
自己評価 ×	社会的承認 自己肯定	喪失感 自己否定

基軸となるのは、自己評価

- (1) 評価者・項目の妥当性
- (2) 回収・集計の信頼性
- (3) 分析・考察の客観性
- (4) 結果と改善策の具体性

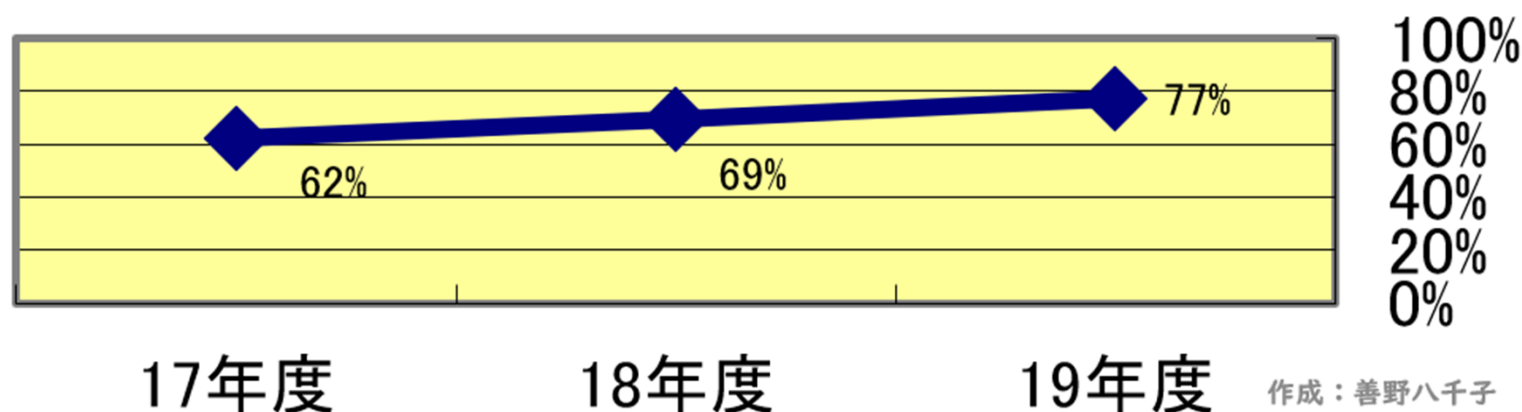
「学校評価」結果公表の工夫

①伸び ②追跡調査 ③結果のズレ

(1)-①伸びをみる:経年変化

各教科の基礎基本 15%上昇(府内C小学校 教員回答)

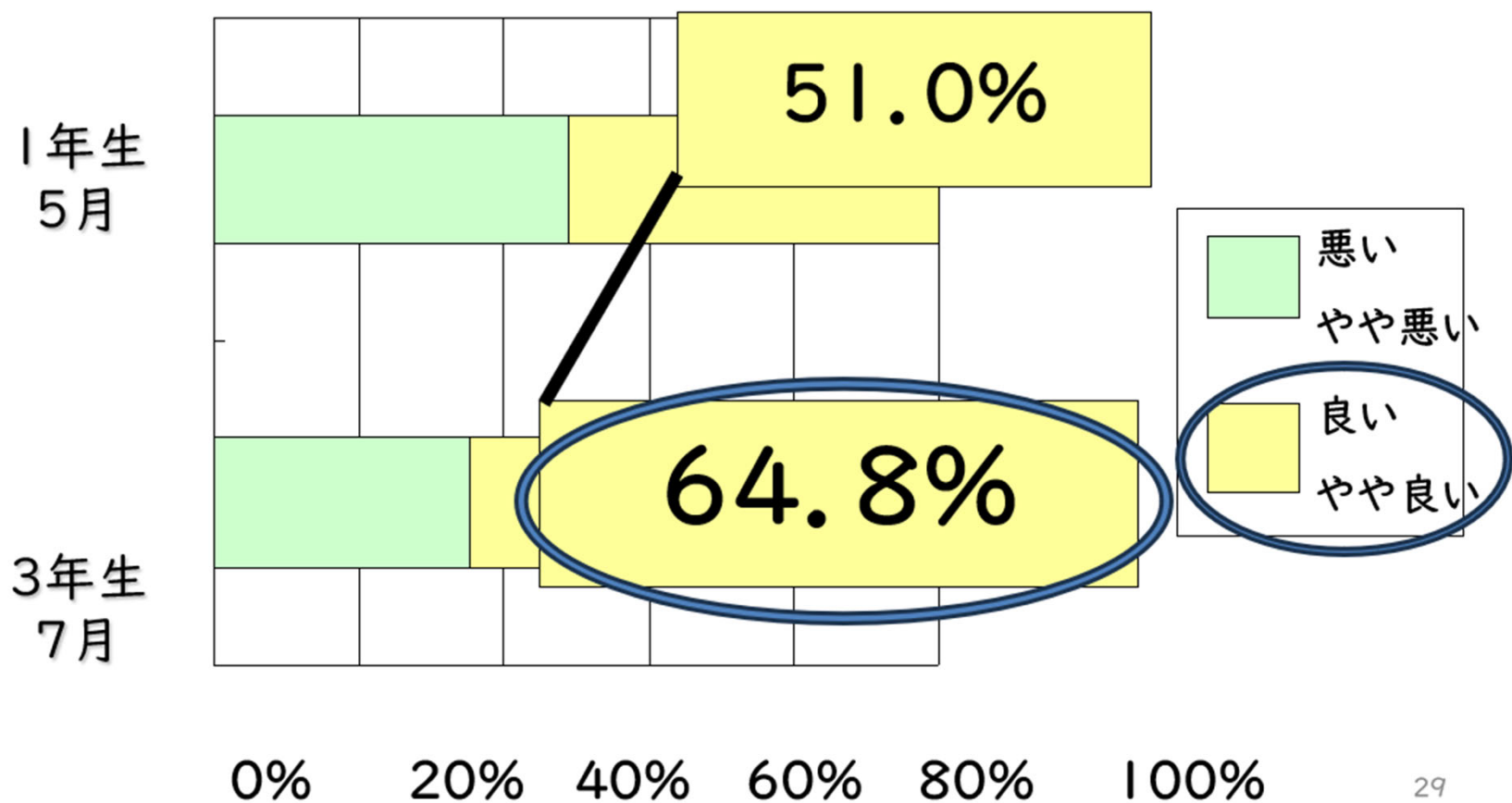
問5 本校の児童は、各教科の
基本的な力がついている(教員)



(1)-② 入学年度から同じ学年を追跡調査

(府内D中学校 生徒回答)

Q.「授業中に授業の内容を理解しているか」



1-③ズレをみる【アンケート項目一覧表】

① M市アンケート項目事例集から

小項目	観点	評価の視点	教
教育課程	編成	児童・生徒や学校の現状、地域の実態を十分に配慮した教育課程の編成	○児童生徒が地域の実情に合わせた教育課程を編成している。 ○児童生徒の力を育む教育課程を実施している。 ○特色ある教育課程を目指して編成している。 ○教育課程が地域の実情に合わせたように編成されている。
	展開	児童生徒の個性を伸ばし、生きる力を育むための教育課程の展開	○児童生徒が個性を伸ばし、生きる力を育むための教育課程を展開している。

作成：善野八千子

1. 教育課程・学習指導

共通アンケート項目例

《教職員》

学校は、学び方を身につけ、学ぶ喜びを実感させる指導をしている。

《保護者》

お子さんは、授業は分かりやすく、楽しいと言っている。

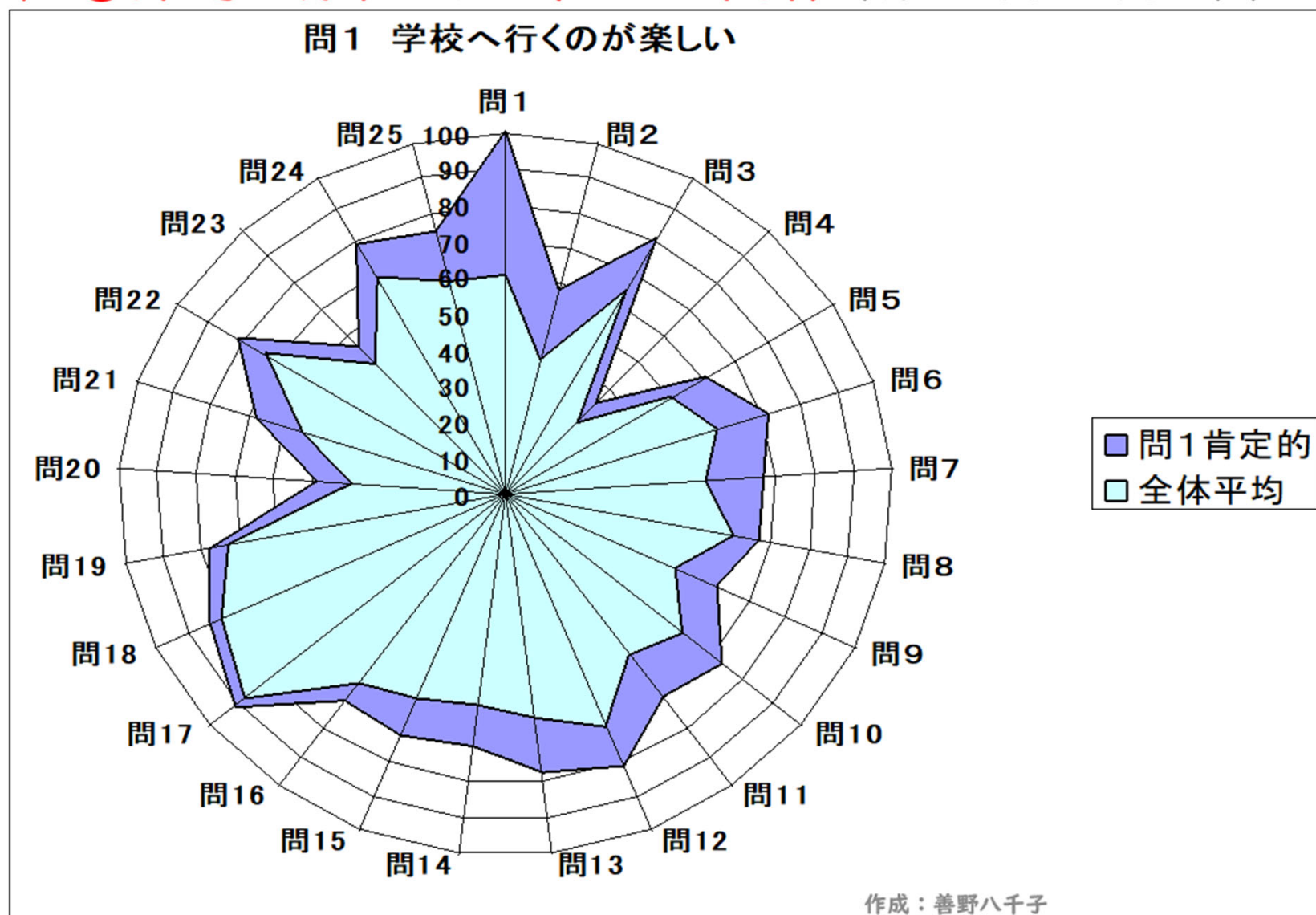
《児童生徒》

授業は分かりやすく、楽しい。

《地域》

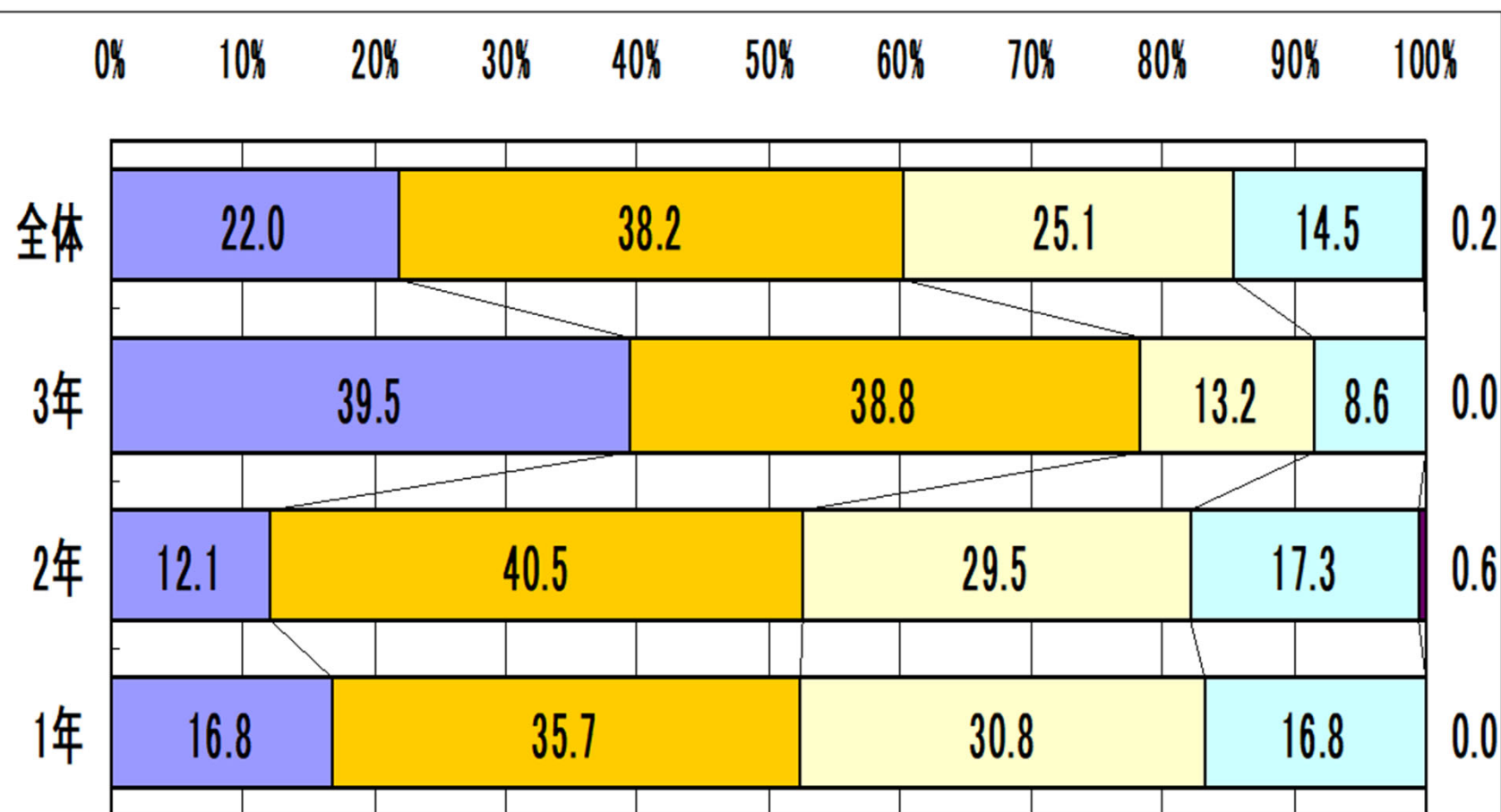
学校は、教育に一生懸命取り組んでいる

(2)ー①課題を明確にする(クロス集計)(府立C高 生徒回答)



(2)-②学年別でさらに明確にする

問1 学校へ行くのが楽しい(府立C高 生徒回答)



数値に一喜一憂しない

☆変化を示す数値目標も

☆見逃してはいけない数値も

「学校が楽しい」全くそう思わない 1%

であっても、その児童生徒は、他の質問にどう答えているか **クロス集計**

意図的・計画的・継続的

今より、よくなるために何をするか？

「競争相手は、昨日の自分」

「教育目標に対応した学校園づくり」 Action Planの作成

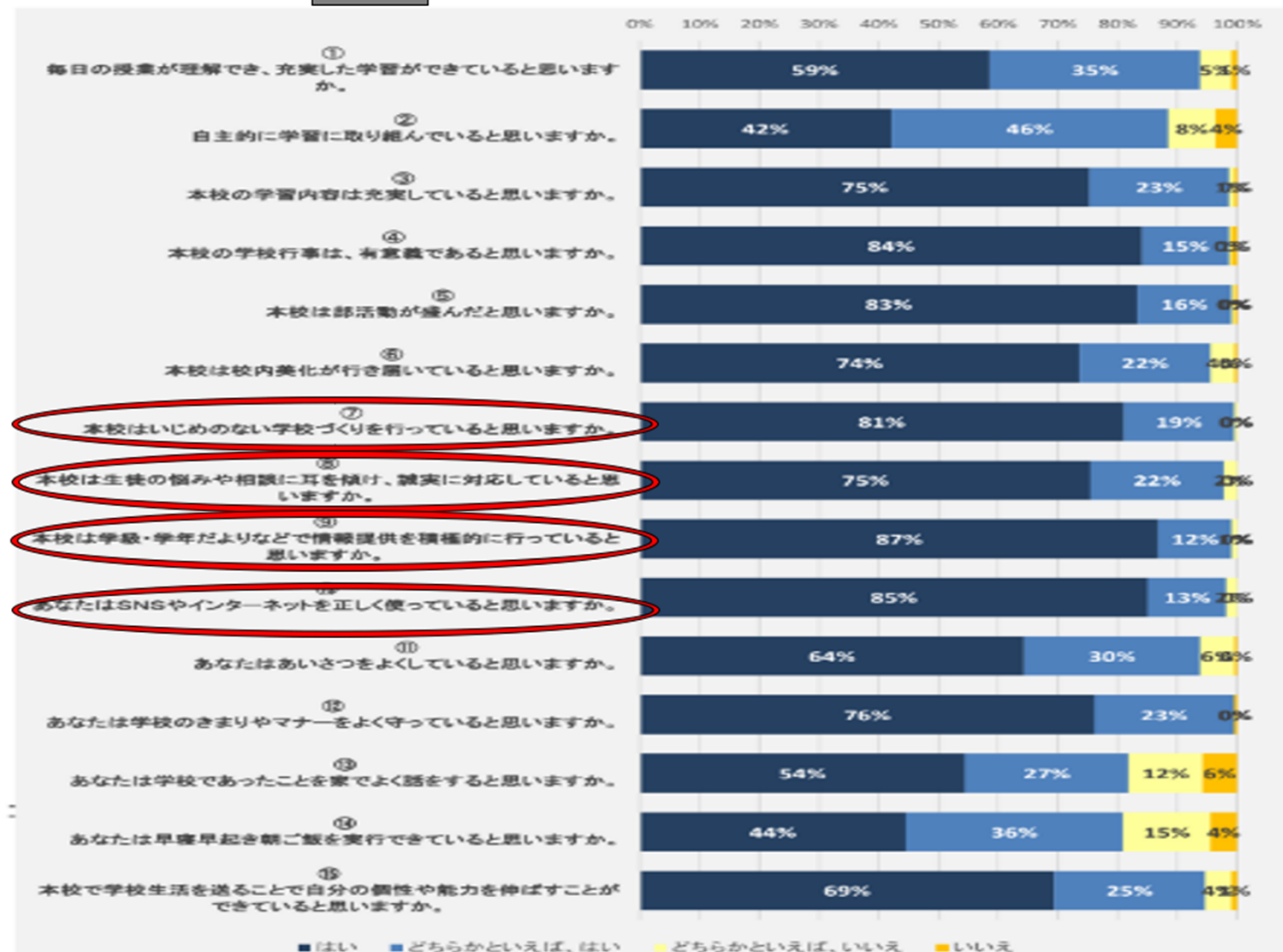
プラスの評価結果 + ➡ ++ 特色づくり

自校の誇りを強化するプロセス

学校のグランドデザインはあるか

マイナスの評価結果 - ➡ + 問題解決

令和5年度 中学校 学校評価アンケート【生徒用】 生徒数275名



2024.9.10「訪問型家庭教育支援推進事業」特別講演「令和の日本型学校教育」を推進するための
家庭教育支援について～全ての子供たちの可能性を引き出し、高めるために～資料 HP掲載(善野 加筆)

(知) 自ら学び、考え、表現し、主体的に活動できる生徒
 (徳) 人間性豊かで思いやりがあり、集団や地域に貢献できる生徒
 (体) 健康で活力があり、粘り強く最後までやり抜く生徒

目指す
学校像

学校教育目標

ともに伸びる

～仲間とともに伸びる 家族とともに伸びる
 地域とともに伸びる～

目指す
生徒像

目指す
教師像

「生徒の自主性を育み、
 一人一人の個性や能力を伸ばすことができる学校」

- ・生徒が「わかる」「楽しい」「力がついた」と実感する授業を創造する教師
- ・生徒一人一人に丁寧に寄り添い、やる気を引き出し、信頼される教師
- ・見通しをもって粘り強く取り組み、指導力向上に努めて自己変革する教師

確かな資質・能力の育成

- ①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ②ICTの効果的な活用や自学自習能力の育成
- ③授業スタンダード等による学びに向かう力の向上

- ①→研究主題による授業実践研究の推進
 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
 《指導の個別化、学習の個性化、協働的な学びを位置づけた単元（題材）の授業設計と「見方・考え方」を働かせる指導の工夫を通して》
- ②→ICTを活用した新たな学習活動による授業づくりやICT活用能力の向上及び家庭学習の質的充実
- ③→授業スタンダードや授業基盤・授業設計、授業展開の手引きの工夫改善と学校全体での統一した実践

豊かな心の育成

- ①人権に関する知的理解を深め、望ましい人権感覚を培う
- ②考え、議論する道徳の授業づくりによる道徳性の向上
- ③キャリアノート等の活用による基礎的・汎用的能力の育成

- ①→人権教育の指導内容と指導方法の工夫改善のための研究実践
- ②→各学年による教材研究、授業実践のさらなる充実
- ③→キャリア教育の視点からの学級活動の計画的な実施と学校行事や総合的な学習の時間の充実

健やかな身体の育成

- ①早寝・早起き・朝ご飯など基本的な生活習慣の向上
- ②健康で安全な生活の実現に向けた実践力の向上
- ③運動に親しみ他者と協力して活動できる心身の向上

- ①→生活アンケート等による実態把握と生徒が自ら考え実践する生活習慣づくり
- ②→感染症予防対策の徹底や体調管理等の保健安全指導の充実、避難訓練等の計画的実施と防災学習の充実
- ③→体育の授業や体育的行事、部活動の充実とカウンセリングマインドによる教育相談の充実

◆学校教育目標に対応したカリキュラム改善

学力向上策の発信

学習指導要領で重視される「活用力」「探究力」



1. 子どもの学力を向上させ、子供・保護者・地域住民に示す。

IRを活用した根拠を元に、マネジメントの組織化で共に創り出す

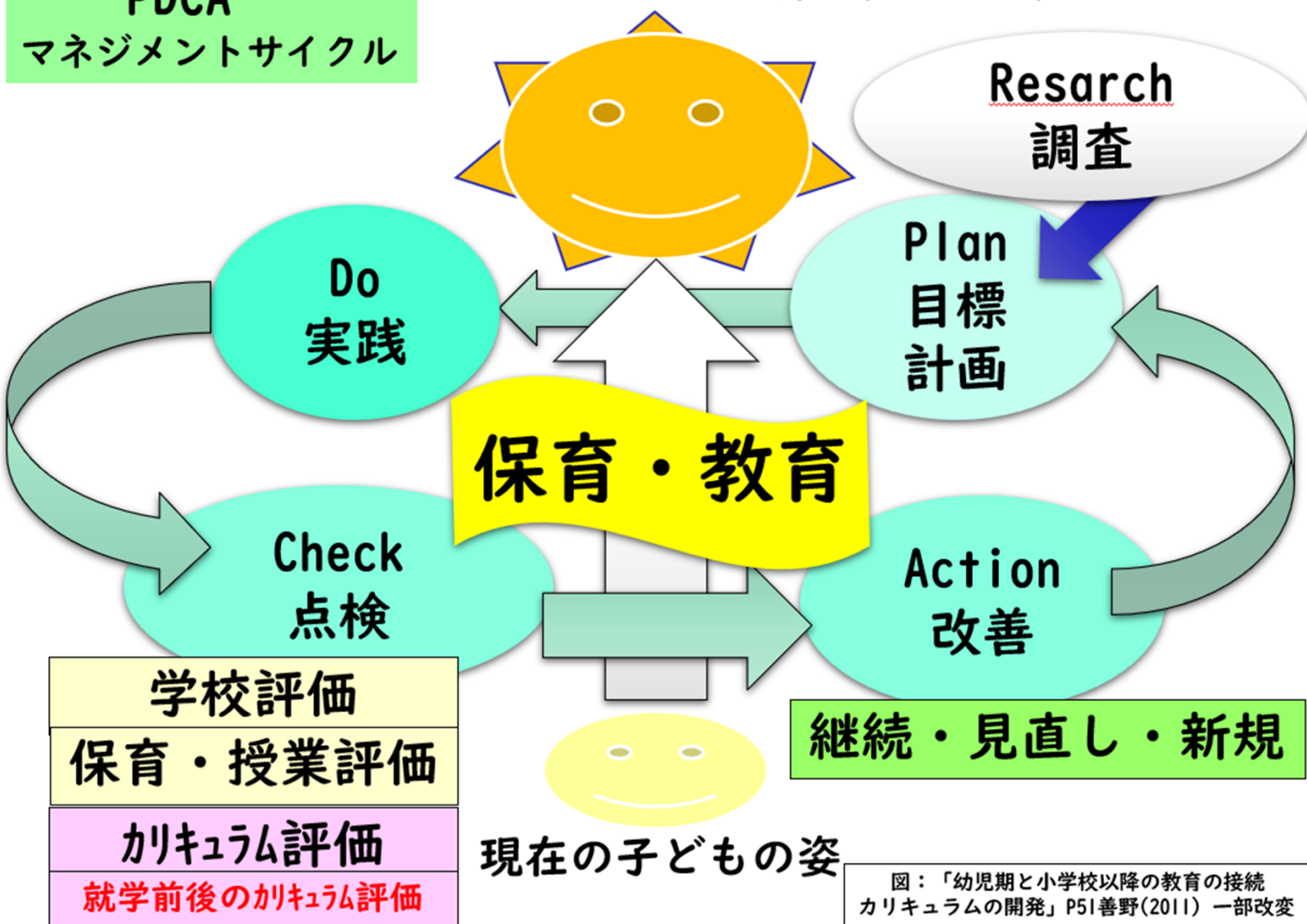
2. 持続可能な社会の「創り手」を育てる「学び続ける教師」のやりがい

3. 生産年齢人口の急減

→子供の社会参画意識醸成、共生社会、マルチステージの人生モデル

PDCA
マネジメントサイクル

めざす子ども像 (Vision)



図：「幼児期と小学校以降の教育の接続
カリキュラムの開発」P51善野(2011) 一部改変

学校教育への願い

- 相 違



みんな同じはずが無い

- 総 意



説得より納得

- 創 意



学校教育への参画から特色づくり

今後の課題

各学校や地域において

ナショナル・ミニマムが達成されているか把握

([日本国憲法第25条](#)における[生存権](#)保障)

- ◆学校教育の到達目標を明確に(量的目標・質的目標)
 - ◆評価の視点や基準を明確に(いつ、だれが、どのように)
 - ◆全国学力・体力・運動能力調査結果を活用
 - ◆家庭教育・地域全体で取り組むべき目標を示す
(基本的生活習慣など)
- 家庭教育の見直しや振り返りの指標
- 学校教育目標を組織的、継続的に改善しているか

所 感

評価を求めれば必ず残る課題も、生まれる課題ある。
課題のないところに発展はない。

改善の道筋は、改善の焦点化から始まる。

だれかにさせられるのではなく、だれかのためだけにする
のでもない。

教育にかかわるもの自身にとって、自己改善につながる確
かなデータである。

学級づくりが学校づくりの軸に連なり、学校教育目標に
全教職員の「指導の工夫改善」が同じベクトルで発揮され
個々の子どもの人づくりとなるとときに責任を果たしている
といえるのではないか。

(引用：善野八千子2002【日本教育経営学会発表「学校の自己評価から学校改善へ」～学校教育自己診断の活用状況～】)